

【59】 エジプトはナイルの賜物

全長 6,700 kmを誇る世界一の長流ナイルは、アフリカ中央部の山地と東部のエチオピア高原の降水量の比較的大きい地域を水源としていますが、数千kmを流れてスーダン北部からエジプトに入るあたりから全くの乾燥地帯になっています。

とくにエジプトは地中海沿岸の一部を除くと、全く雨が降らず、年平均降水量の数字だけでいえば、首都カイロは 35 mm、アスワンハイダムで有名なアスワンは 3 mmです。

エジプトで驚かされるのは、この全く雨の降らない国なのに農業生産が盛んで、穀類の年生産量でいえば、小麦、トウモロコシ、米など計 2,200 万トンにもなり、わが国の米とくばくかの麦類を合わせた 1,100 万トンの 2 倍にもなります。この膨大な農業生産を支えている水資源というと、ごく一部の地下水を別としてナイル川の水なのです。ナイル川のエジプトへの流下量は年平均 800 億 m³（年ごとの変動が大きく 400～1,500 億 m³）に達しますが、面積 100 万km²、人口 1 億人の雨の降らない大きな国が国内に支川もない文字通りたった 1 本の河川に依存しているのです。

古代ギリシャの歴史家ヘロドトスがいみじくも言ったように“エジプトはナイルの賜物”なのです。